

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 森下三丁目保育園
施設所在地	東京都江東区森下三丁目5番26号
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「日本文化」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

深川地区という古き日本の文化が残っている地域を大切にす為
園の立地場所が、古き良き日本文化の残る地域であり、夏祭りや、相撲観戦等普段から子ども達の身近なものであるため、理由として設定。

2. 活動スケジュール

6/11 地域の相撲部屋「大嶽部屋」稽古の見学：5歳児
6/12 積み木ワークショップ木のおもちゃ「トナカイ」の林さんから積み木について学ぶ：4 5歳児
7/30 わらべうた ワークショップ（室内編）
幼児：友達と2人組でのわらべうた 乳児：ふれあい遊びができるわらべうた
8/21 わらべうたワークショップ（室内編）0、1歳児は保育参加でもわらべうた取り入れる：全クラス
8/27 積み木ワークショップ 4、5歳児
9/11 積み木ワークショップ 保育士向け
9/18 わらべうたワークショップ（室内編）縄跳び購入 まり購入：4 5歳児 季節のわらべうた0
1 2 3歳児
10/20 和楽器購入 ビンマイク購入（講師用）2 3 4 5歳児
10/30 わらべうたワークショップ（戸外）3 4 5歳児 室内：0 1 2歳児
11/6 積み木ワークショップ 保育士向け
12/24 音の出る紙芝居 みよよさん 紙芝居：0 1 2歳児
絵本 紙芝居購入 けん玉 かいと購入：全学年
1月 幼児用インスタントカメラチャッキ購入：4 5
1/8 マンガ探し（森下文化センターへ）
1/14 わらべうたワークショップ（戸外）
1/15 音の出る紙芝居 みよよさん 紙芝居（幼児）
1/15 積み木ワークショップ（保育士向け）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ピンマイク：講師がワークショップを行うために使用:4 5歳児 保育士向け
- ・和楽器 外国の楽器：日本の楽器の音を十分に味わったあと外国の楽器に触れてみる為購入：2 3歳児
- ・ゴムまり 縄跳び：わらべ歌で使用し、長期にわたり子どもがいつでもできるように縄跳びについては相撲部屋での子ども達の発見で締め縄が上がり色々な縄があることを子ども達と話し合い身近な縄跳びを購入：5歳児
- ・インスタントカメラ「チェキ」 フィルム：5歳児が振り返りで使用する画像撮影で使用し撮影したものを展示したり、積み木活動に使用：5歳児
- ・けん玉 凧：お正月遊び会を実施した後、お正月遊びをいつでもできるように：3 4 5歳児
- ・落語絵本 言葉遊び絵本：言葉遊びを子ども同士でいつでもできるようにエントランスへ常設：全クラス 保護者
- ・紙芝居：年長児が小さな子へ読んであげたり、保育者が日本ならではの紙芝居をいつでも読んで聞かせられるように。園エントランスに「日本文化コーナー」設置し、コマ、けん玉、羽根つき等も合わせ保護者とも楽しめるようにした：全クラス 保護者
- ・トナカイ林先生の積み木研修：4 5歳児 保育士
- ・トナカイから積み木の購入：0 1 2歳児
- ・彦坂早苗先生のわらべうた講師料：全クラス
- ・紙芝居師みよよさんの講師料：全クラス

4. 探究活動の実践

<積み木> 4, 5歳児および保育士向け

日本の伝統の遊びの積み木「積み木で世界を広げよう!①」積み木の講師から45歳児が積み木の仕組みや、技を教えてもらう。(2回)「積み木で世界をひろげよう!②」積み木のワークショップとワークショップ間の期間は保育士や友達同士と積み木の活動をいつでもできるよう積み木コーナーを「積み木が諦めないやり直す力になる!」子どもと一緒に積み木を深めるためにワークショップ受講。言葉がけや、積み木の技を学び実際に体験する。5歳児は園で自分たちの行った場所を少人数の子ども会議で振り返り積み木で表現した。自由遊び中も夢中になって遊ぶ。1人での積み木の活動であったが、友達と協力して作品を作る活動ができるようになった。積み木をやりこむことで他の玩具への興味もわく(ラキュー)

<わらべうた> 全年齢

「わらべうたうたを楽しもう」乳児はふれあい遊びのつながりで、講師から伝承されたわらべ歌をいつでも保育者と一緒に楽しんだ。「友達ともやってみよう」保育者とのふれあいから気が付くと友達同士でのふれあいをするようになった。「お家の人もやってみよう」保護者へも広げ家庭でもわらべうたを楽しんでいる。幼児は、「色々な縄、ボール遊びを知ろう」縄跳びやまりを使用していつもドッジボールなどで使用するボールとは違う遊びを知る。いつでもボール縄跳びは使用できるようにした。大縄、個人飛びの縄跳びに合うわらべうたに合わせて飛んで楽しんだ。わらべや縄跳びの飛ぶタイミングなど子ども達と体感しながら振り返る。「運動会でお家の人に見てもらおう」運動会で保護者へ見せたいと子どもから声があがり、組体操と縄跳びを発表した。「グループで楽しもう!集団で楽しむルールのあるわらべうたを34歳児で活動するが、なかなかうまく進められなかったため、講師と担任園長で話し合い、ルールは年長者と一緒にやることで覚えられるので345歳児が一緒にできるグループを3つ作り活動した。5歳児の年長者だという気持ちが表に出て手本となり、自然と遊びの中でルールを34歳児も覚えて楽しむことができた。

<和楽器 外国の楽器> 2, 3歳クラス

「和楽器の音を自分でたたいて楽しんでも」最初にクラスごとに(主に23歳)児楽器に触れてみる。どんな音がしたか話し合った。いつでも触れられようホールに和楽器を常設。「大事に使う」子ども達が自由に活動する中、あたりがねのばちの本鹿ばちが壊れてしまう。どうしたら壊れないか話し合う。代用パチを購入。「音楽に合わせて音を鳴らしてみよう」和楽器を自分たちの知っている音楽に合わせて奏でみる。色々な音に合わせて奏でみたのち、外国の楽器に触れてみる。奏で方の違いや音の違いに気が付く。同じ音楽に合わせて奏でて違いを楽しむ。

<絵本 紙芝居> 全クラス

≪相撲部屋見学≫ 5歳クラス

<コマ、凧> 3, 4, 5歳クラス

「昔話を味わおう」「お話ボランティアや普段の園での活動の中で、お話を聞くことをどの子どもも集中した楽しんでいる様子に気が付き、日本ならではの絵本、紙芝居を購入「日本の昔話をよんでもらおう」紙芝居は普段の保育の中保育士が読み聞かせる。3454歳児はお話を覚える程集中して、味わっていた。「面白い紙芝居を体験しよう!①」紙芝居屋さんにきてもらう。幼児は十二支のお話を聞きいた後、少人数の子ども会議で自分の干支を言ったり、今年の干支の話で盛り上がる。「面白い紙芝居を体験しよう!～実践編～」45歳児は自分たちが紙芝居を読んでもらって楽しかった気持ちを乳児への紙芝居の読み聞かせとして実施する。

「言葉遊び 落語を楽しもう」昔の言葉遊びを子どもに機会があるたびに使って見る「ありがた山のかんがらす」「合点承知の助」など。子ども達がゲラゲラと笑う様子を見て、言葉遊び絵本、落語絵本を購入。1日一つずつこどもと読み進める。「保護者とも楽しもう」日本文化コーナーコマ、羽子板、けん玉、お手玉と一緒に絵本、紙芝居も常設し保護者と楽しめるようにした。「日本の伝統遊びを知ろう!～お正月遊び～」園全体での【新年こどもかい】を行い、自分たちが駒になるすごろく、コマ、かるた、福笑い、羽根つき、お手玉をコーナーに分かれて楽しんだ。コマ、けん玉、お手玉は日本文化コーナーへ常設。けん玉は常に、幼児の部屋でいつでもできるようにもした。毎日練習する子どもがいた。「マンガを探してみたい!初めてみた!読んでみた!」家庭でゲームをしている子どもが多く、昔はゲームがなかったからマンガをよく読んでいた事を伝えた。「ママたちも読んでたかな」のつぶやきから、保護者にご協力いただき読んでいたマンガを子どもが知る。「マンガを探しに行ってみよう」のらくろ作家の漫画家・田河水泡(たがわすいほう)さんの出身地域で、近所の文化センターにマンガたくさんあり、5歳児が見学へ行く。保護者の好きなマンガを子ども達と探し読んでみる。「保護者にマンガを見つけた事を報告」家庭に持ち帰り保護者へマンガを見つけた事や、読んでみたことを報告。保護者からのフィードバックを子ども会議で発表。

「国技のお相撲をみに行く」春に近所の相撲部屋(大嶽部屋)へ見学に行かせていただき、日本文化をたくさん探求した子どもが国技の大相撲を観戦に行った。「相撲の話しよう!」印象に残った事を少人数の子ども会議で話し合う。「相撲会場を作って見よう」自分たちが印象に残ったことやインスタントカメラの画像を見て積み木で表現した。積み木の希釈や比率と技を学んだことが生かされていた。「発表してみよう!」積み木で作った国技館を他のクラスへ発表した。他のクラスが憧れの気持ちを持ち、真似して積み木の作品を作っていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

5歳児：日本文化を通し、「つづける」「あきらめない」という気持ちが成長した。苦手な事をできな
いとやめてしまっていた子どもテーマが「日本文化」であった為、保育園ではもちろん、家庭へ帰っても
保護者と一緒に活動できることがよい影響があった。

相撲部屋を見学したことで縄に興味をもって、縄跳びを始める。練習を重ねてもなかなか上達せず
にふてくされたり、泣いたりする姿も見られたが、「つづけて練習する」「あきらめない」で家庭と連携も
あり自分たちで決めた運動会での発表に向け当日を迎えることができた。保育者も「もう一回！」を合
言葉に子どもを励ます姿勢が見られた。「つづける」気持ちは他の活動へも良い影響を与え、好きなも
のを見つける力も育ち子ども同士がお互いを認め合えるようになりトラブルが減少した。

4歳児：わらべうた 伝承遊びを通し、年長者の憧れの存在として真似をして作品制作や小さな友達へ
の思いやりを持って行動することが増えた。来年の自分たちへの期待感も感じてる様子だった。

3歳児：もともと音楽やダンスの好きな子どもが多く楽器に触れることで、自分が感じた気持ちを言葉で表
現する事ができるようになった。保育室内での設定ができなかった為段ボールで太鼓の代わりにして
いつでも楽しめるようにした。

乳児クラス(0、1、2歳児) わらべ歌を通して、保育者との1対1の時間が持てることで、順番を意識し
て待てるようになった。保育にわらべうたを取り入れることで子どもが注目し、気持ちが前向きになり
泣き止むことが多々あった。おすすめのわらべうたを掲示し家庭でもふれあい遊びができるようにし
た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日本の伝統文化が身近にある地域であるが、親しむ経験が少ないと感じもっと触れてほしかった。経験
をするために入口を広くとることで、多種多様な日本文化に触れることができ難しく感じることなく触
れることができた。

園のエントランスには日本の伝統文化の物を展示し体験できるようにした。保護者の中には、けん玉名
人のお母さんや、相撲好きなお父さんがファンクラブに入会していることもわかり、園内に日本文化に親
しむ環境ができた。また、日本文化が浸透していないと感じていたがやってみると親しみがある家庭が
多いことに気が付いた。2月の節分ではおとうさんが鬼に変装し豆まきをすることができた。今後は日
本文化を核にし、園としてつながりを大切にしていき、コミュニティの拡大をしていきたい。